

第2次中隊等訓練検閲(16普連 通信小隊・第4中隊・重迫撃砲中隊)

重迫撃砲中隊



車両偽装



航空攻撃に重機関銃で対処する隊員



火力調整所



射撃号令により照準する砲手

第4中隊



隊容検査(防護マスク装着)



警戒



迫撃砲の照準をする隊員



戦闘展開

通信小隊



隊容検査(回頭試問)



命令下達



有線構成



有線埋設

第16普通科連隊(連隊長 1等陸佐 土肥 崇紀)は、令和5年10月16日(月)から令和5年10月18日(水)、大野原演習場において第2次中隊等訓練検閲を実施した。統裁官は、「領域横断作戦環境下の戦いであることを意識せよ」「各種管理を徹底せよ」の2点を要望した。また、通信小隊長は「必通」、第4中隊長は「生き延びろ・任務を完遂せよ」、重迫撃砲中隊長は「任務完遂」の要望事項を掲げ状況を開始した。検閲間、各級指揮官の積極果敢な指揮の下、全隊員が士気旺盛、かつ、中隊の任務、中隊長要望事項をよく理解し、練成した成果を遺憾なく発揮し任務を完遂した。本訓練検閲を通じ、各受閲部隊は部隊の練度を把握するとともに今後の訓練の資を得ることができた。

第3次大隊野営(4施大 第3中隊)

第4施設大隊(大隊長 2等陸佐 赤尾 広徳)は、令和5年10月15日(日)から令和5年10月18日(水)までの間、大野原演習場において第3次大隊野営訓練として、令和5年度第3中隊訓練検閲を実施した。本訓練検閲においては、各級指揮官の指揮、部隊の基本的行動、隊員の基礎動作について演練し、練度を向上することを目的として実施した。検閲開始にあたり、統裁官は「師団の戦い方へ寄与する方策を探求せよ」及び「安全管理を徹底せよ」の2点を要望した。訓練検閲においては、情報、障害と火力との連携等の各連携を確実に実行し与えられた任務を遺憾なく完遂した。本訓練検閲を通じ、任務遂行能力の現状を把握し、今後の訓練への資を得ることができた。



へり散布装置の装着



命令下達



敵航空攻撃への対処



車両の偽装



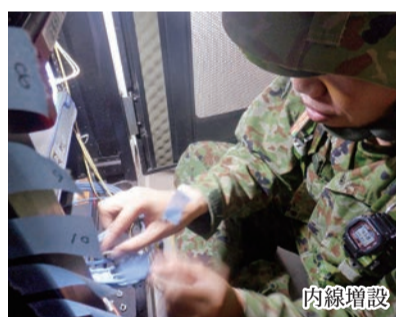
掩体掘削機による陣地構築



測量班による測量

西部方面総監訓練検閲(基通隊)

第321基地通信中隊 大村派遣隊(隊長 3等陸尉 斎藤 雅臣)は、令和5年10月23日(月)までの間、令和5年度国内における米海兵隊との実動訓練に参加し、方面総監直轄部隊訓練検閲を受閲した。本訓練は、部隊の教育訓練の成果について評価を受けその進歩向上を図るとともに調整所に要員を差出し、西部方面隊の作戦、戦闘に必要なシステム通信・サイバー・電磁波作戦に関する日米間の連携強化及び共同対処能力の向上を目的として行われた。本訓練検閲を通じ、各派遣隊と連携を深めるとともに、今後の訓練への資を得ることができた。



内線増設



交換業務



警備予行



増援準備